

令和6年度 第1回さいたま市健康づくり・食育推進協議会 議事概要

◎ 日時

令和6年5月23日(木) 15時30分～16時30分

◎ 場所

さいたま市役所 議会棟2階 第6委員会室

◎ 出席者

《委員》内山委員、大塚委員、小川委員、落合委員、小林委員、菅野委員、並木委員、服部委員、巻委員、松本委員、湊委員、桃木委員

《関係課》中央区保健センター：山口所長、北区保健センター：小林所長補佐兼係長
桜区保健センター：田場主査、健康支援課：高木主任、
農業政策課：金子主事、健康教育課：西川主任指導主事兼係長

《事務局》保健衛生局保健部：齋藤部長

保健衛生総務課：浅野課長、今野参与、竹村課長補佐兼係長、松本主査、山田主査、
大久保主任、中山管理栄養士

《傍聴人》なし

◎ 欠席者

《委員》秋山委員、近藤委員、篠原委員、脇之蘭委員

◎ 会議資料

- ・次第
- ・さいたま市健康づくり・食育推進協議会 委員名簿
- ・さいたま市健康づくり・食育推進協議会 関係課職員名簿
- ・座席表
- ・資料1-1 さいたま市の食育取組状況令和5年度
- ・資料1-2 第3次さいたま市食育推進計画 進行管理表
- ・参考資料1 さいたま市健康づくり計画抜粋(61~66ページ)
- ・参考資料2 食育月間・食育の日普及啓発ポスター(案)
- ・資料2-1 「さいたま市健康づくり計画」進行管理について
- ・資料2-2 令和6年度さいたま市健康づくり計画に関する事業の取組状況
- ・資料2-3 さいたま市健康づくり計画に関する施策の体系図と主な取組

1 開会

2 保健部長挨拶

3 議事

(1) 第3次さいたま市食育推進計画の進行管理について

《資料》

- ・資料1-1 さいたま市の食育取組状況令和5年度

- ・資料1-2 第3次さいたま市食育推進計画 進行管理表
- ・参考資料1 さいたま市健康づくり計画抜粋（61~66 ページ）
- ・参考資料2 食育月間・食育の日普及啓発ポスター（案）

〈事務局〉

資料に基づき説明。

〈会長〉

質問や意見があるか。

【意見、質疑・応答】

服部委員： 第3次さいたま市食育推進計画における指標の達成状況について48%が悪化しているという結果について、コロナの流行などの影響があったように感じるが、把握していることはあるか。また個々の達成状況について、数パーセントの差でD評価となっている。そのため最終的な評価について、厳しい結果となったか、と感じている。また目標値が高かったのかとも考えるがいかがか。

事務局： 市民調査の結果について、コロナの影響と断言できる根拠はない。今後については感染症の影響などを考慮できるものがあれば、反映を検討したい。また、目標設定については、国の動向を勘案しながら設定している。今後も引き続き動向をみて検討したい。

桃木会長： 食育の中で、減塩がポイントと考えている。塩分摂取量がどの程度か、また減塩についての市民へのアプローチをどのようにしていくのか。高血圧や腎臓病などへの影響から減塩は重要であるが、一方で広く市民の方に伝えることが難しいと感じている。減塩に関する普及啓発について何か提案があるか。

事務局： 市民の塩分摂取量について、把握できていない現状がある。市の教室等、減塩について説明をする機会はある。無関心層へのアプローチについては改めて検討したい。

桃木会長： 広く市民に理解していただける仕組みを作っていただきたい。薄口しょうゆを減塩方法として使っている、という方もいらっしゃるが、塩分はより多い。さらに色味が薄いため量を使ってしまうこともある。また、推定の塩分摂取量15gの方もいらっしゃる。本当の減塩方法がわかっていない方もいらっしゃると感じている。減塩について行政からも普及啓発してもらえるとよい。

(2) さいたま市健康づくり計画の進行管理について

《資料》

- ・資料2-1 「さいたま市健康づくり計画」進行管理について
- ・資料2-2 令和6年度さいたま市健康づくり計画に関する事業の取組状況
- ・資料2-3 さいたま市健康づくり計画に関する施策の体系図と主な取組

〈事務局〉

資料に基づき説明。

〈会長〉

質問や意見があるか。

【各委員から】

内山委員：計画の基本的な考え方について、内容は非常によいものである。その中で、こういったものを環境づくりというのか。例えば公園の整備など、自然と運動ができる場所の整備であるのか、それとも健康づくり教室などを開催するなど、どちらであるのか。

事務局：本計画は保健計画として、市民の行動変容を促すもの。ハード面よりはソフト面の取組を指すもの。健康づくりのイベントや健康づくりに関する団体様の活動を推進するもの。

大塚委員：資料が見やすくまとまっている。食育ナビサイトも新しくなったとのことで、今年度は多く利用していきたい。

小川委員：第3次食育推進計画が残念な結果であったことを受け、栄養士会の代表として、もう少し頑張らなければならなかったか、との思い。一方で、コロナ禍で難しい状況があったのも事実である。第4次計画はより頑張っていきたい。また、減塩について様々な場所で話す機会もあり、市民にとっても興味関心が高い内容。知っていても実践できない方も多く、できるように工夫を伝えていきたい。

落合委員：“残さず食べるなど、食品ロスの削減”と“適正体重”という2つの目標について矛盾を感じる。学校給食や家庭において残さず食べると教育される中、適性体重について個人・子供たちに任されているように感じ、疑問に思う。食品ロスに関しては、個人の取組よりも大きな観点で取り組むほうが、効率もよく、個人の健康も守られて良いのではないか。保育園や学校において、食事を残さず食べると、植え付けるのは賛成できかねる。また、厚生労働省・農林水産省が決定した食事のバランスガイドの内容は大切と感じている。

事務局：“残さず食べる”という目標は、自分の適量を把握するのに必要なことととらえており、経験を積みながら適正な量を把握することが、なるべく残さないように食べることにつながると考えている。

大塚委員：(保育園の立場から) みんなで一緒においしく食べることが基本、個々の適量を把握し、強制的に食べさせることはないのご安心いただきたい。

桃木会長：時代とともに(強制的な)残さず食べるという状況はなくなってきていると思われる。

小林委員：特に食文化が大切と感じている。埼玉は小麦の文化があるか、そこに育まれた食文化、食生活があると思う。その点も市民へ推進していただければと思う。会議所として、市民の健康寿命の延伸を目指し情報発信をしている。数社の事業所と減塩、適塩メニューを開発するものの、なかなか普及には至らない。しかしながら、地道な活動の必要性も感じている。皆様からも良いアイデアがあればお知恵いただきたい。また会議所として健診を中心に労働環境の整備をしている。健康経営として、職場にいる時間に健康づくりを勧める運動の旗振り役をしている。これからも引き続き頑張っていきたい。

菅野委員：“若い世代から自ら健康に”“地域とつながって健康づくり”という点が、PTAにできることと感じている。給食試食会などを行うようになった地域はある。しかしながら、地域の方と作る・食べるという活動など、コロナ前に行っていた活動を行う地域は少ない。なかなかスタートができない地域もあるため、さいたま市として広く、子供の向けのイベントや啓蒙活動が進むとありがたい。

並木委員：社会福祉協議会、自治会、保健センターなどと連携をしながら、活動をしている。各団体の専門性を感じ、各団体と連携を図りながら愛育会として総合的に活動していくことが大切と感じている。若いお母さんや子育てに悩んでいる人は多く、愛育会の活動の場で参加者同

士の交流をはかっている。活動については PDCA サイクルで評価をしながらバージョンアップしていけるとよいと考えている。また、地域に根差したリーダーも育成していきたいと考えている。

服部委員：コロナの影響もあり前計画の評価も難しい中、丁寧に評価等を取り組まれていると思う。新計画でも引き続き推進を図っていただきたい。市民の活動も再開が始まり、今後の評価はまた変わってくると思われ楽しみである。引き続き丁寧な取り組みをお願いしたい。

巻委員：健康づくりにおいて歯科は口腔ケア、食育という観点から、健康を維持する、フレイルを予防するという点で得意な分野である。歯科口腔審議会において歯科分野についても計画の進行管理を作成したところ。その中で、食育については事業計画を作成するのが難しいと感じている。今、委員からでた評価を今年度に反映されるとよい。資料 2-2 をみると、対象がはっきりしていない事業が多いように感じる。評価シートは『子ども』が対象となっているが、幼児、小学生など、より細やかな計画が立てられるとよい。子供から高齢者まで切れ目のない事業の実施ができるとよいと考える。

桃木会長：評価シートが『子ども』としか選択ができないため、次回から反映されるとよい。

松本委員：地域において、ロコモ体操、ラジオ体操を 70～80 名で取組んでいる。冬場の朝に行う際などは照明がつくと活動しやすいと考えている。

子ども食堂を地域団体が立ち上げたが、口座作ることが難しく、運営の難しさ、金銭面の管理が難しい状況。大切な活動であるので、自治会で援助している。

昨年から地域の祭りも復活し、コロナ前の状況を目指しているところ。

喫煙については、自分の健康のために吸わないほうがよいと関係者へ伝えている。

桃木会長：健康増進法などから受動喫煙防止などの各方面において取組が行われている。

湊委員：保健センターと協力しながら健康寿命の延伸を目指して、子供から高齢者まで、地域の交流の場を引き続き設けている。

桃木会長：新計画となり、健康寿命の延伸を目指して、施策、計画をたてている点が大前提となる。その中で減塩は血圧、心臓秒、腎臓病への効果大きい。行政としても減塩を一般家庭、若い世代から取組めるように普及啓発をお願いしたい。また、自分が塩分をどれくらいとっているのか、市民に分かってもらうことが大切となる。

また、健診について、昨年度はコロナ前にもどってきている。今後さらに早期発見、早期治療のために積極的な受検のための施策をしていただきたい。

4 その他

机上配布の健康マイレージおよび食育ナビ・健康ナビリーフレットについて案内。

5 閉会